

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年1月16日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	12月の価格情報				1月		1月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の1月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	1月上旬	1月上旬				
		中旬	下旬							
キャベツ	72.93	102	104	96.86	99	・5,247t (93%)	愛知(62),千葉(17)	平均価格 →	愛知産は、天候に恵まれ気温も高めであったため生育は順調で、玉肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、12月以降の天候に恵まれ肥大も良好であることから、年末年始の需要を見越して現在平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷の見込み。	
	76.91	101	101	92.10	99	・1,680t (77%)	愛知(41),兵庫(12),大阪(10)			愛知産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。
たまねぎ	83.77	66	66	83.77	76	・2,831t (88%)	北海道(90)	→	北海道産は、貯蔵物からの出荷となっており、作柄は良く、順調な出荷となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	83.77	70	70	83.77	74	・1,410t (113%)	北海道(70),兵庫(28)			
ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	240.04	279	294	252.99	347	・1,317t (82%)	千葉(33),埼玉(24),群馬(15),茨城(15)	→	千葉産は、9月の天候不順や11月の気温の低下の影響による生育遅れ等により、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、9月の天候不順の影響で生育が遅れており、草勢が弱いことから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は生育の遅れも回復してくると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
	467.01	491	532	473.04	536	・113t (81%)	徳島(30),奈良(15),高知(15),香川(12)			埼玉産、群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
はくさい	40.32	71	81	64.18	87	・3,120t (79%)	茨城(87)	→	茨城産は、9月の天候不順による定植遅れにより小玉傾向となっていることに加え、実需の引きが強く前進出荷傾向だった影響や最近の気温の低下などから、引き続き平年より少なめの出荷となる見込み。 茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	55.95	92	98	68.70	99	・1,198t (81%)	茨城(19),愛知(19),兵庫(15),和歌山(15)			
ほうれんそう	385.11	458	469	338.43	452	・721t (113%)	群馬(29),茨城(24),埼玉(18)	→	群馬産は、天候に恵まれ生育は順調で、9月の天候不順の影響で生育の遅れていた分の出荷も始まったことから、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は遅れていた分の出荷も落ち着くことから、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調で、気温が高めで推移したため若干前進傾向となっているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
	461.74	489	480	375.38	462	・236t (103%)	徳島(51),福岡(26),群馬(9)			引き続き、茨城産の出荷が平年より多め、埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、群馬産の出荷が平年並みに落ち着くと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
レタス (結球)	233.85	189	185	233.85	165	・3,158t (129%)	静岡(29),兵庫(14),香川(12),長崎(12)	→	静岡産は、天候に恵まれ生育は順調で肥大も良好であることから、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は気温の低下が見込まれることから平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、生育は順調で気温が高めで推移したため前進出荷となっていることから、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は最近の冷え込みから平年並みの出荷の見込み。香川産は、12月の気温が高めでやや前進傾向となっていること、9月の天候不順により定植が遅れた分が出荷を迎えていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 香川産の出荷が平年より多めと見込まれ、静岡産及び兵庫産の出荷が平年並みに落ち着くと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、平年並みに近づくものの、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	226.75	197	178	226.75	162	・621t (102%)	兵庫(49),徳島(22),長崎(10)			
きゅうり	370.98	419	460	370.98	358	・2,291t (98%)	宮崎(42),高知(20),千葉(19)	→	宮崎産は、12月の好天及び気温が高めに推移したことから、現在平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は成り疲れも予測されることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。高知産は、12月、1月と気温が高めで推移し、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。	
	350.33	411	436	350.33	351	・889t (93%)	宮崎(47),高知(21),徳島(18)			
トマト (大玉)	349.23	473	446	349.23	381	・2,710t (96%)	熊本(44),愛知(15),栃木(14)	→	熊本産は、10月、11月の天候不順による日照不足の影響から、引き続きやや少なめの出荷の見込み。愛知産は、9月、10月の天候不順の影響で作柄があまり良くなく、病害も散見され、早めに植え替えを行っている生産者がみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 熊本産、愛知産及び栃木産において現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
	326.61	452	431	326.61	373	・990t (110%)	熊本(73)			
なす	389.03	466	452	389.03	371	・804t (98%)	高知(62),福岡(18)	→	高知産は、12月の気温が高めに推移したため、やや前進出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、11月の気温の低下や日照不足の影響で草勢が弱いことから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、12月上旬の好天により順調な生育となっていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 福岡産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
	397.74	454	443	397.74	357	・288t (104%)	高知(37),熊本(29),福岡(19)			
ピーマン	378.83	485	492	578.80	464	・567t (120%)	宮崎(52),高知(19),鹿児島(18)	→	宮崎産は、天候に恵まれ生育は順調であり、肥大も良好であることから、現在平年並みの出荷となっているものの、今後はさらに増量が見込まれ、平年より多めの出荷の見込み。高知産は、現在平年並みの出荷となっているが、9月の天候不順の影響により根張りが十分でなく草勢があまり良くないことから、10月の天候に恵まれ生育は概ね順調であるものの、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。 高知産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	371.29	467	451	565.30	377	・326t (129%)	宮崎(48),高知(23),鹿児島(14)			
だいこん	67.55	83	86	79.03	83	・4,622t (92%)	神奈川(49),千葉(42)	→	神奈川産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、12月は気温が高めに推移し、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 神奈川産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	76.48	84	87	80.47	80	・1,900t (91%)	長崎(31),徳島(22),鹿児島(22),和歌山(21)			
にんじん	105.86	125	139	111.16	137	・1,924t (74%)	千葉(86)	→	千葉産は、9月の天候不順の影響から生育が回復してきたものの、11月の気温の低下により細物が多い状態が続いていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	104.49	150	143	109.97	119	・516t (86%)	鹿児島(41),長崎(40),鳥取(10)			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成27年実績である。  
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	12月の価格情報				1月		1月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の1月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	1月上旬					
		中旬	下旬							
いも類	さといも	220.97	280	287	228.85	242	・81t (84%)	埼玉(40)、千葉(29)	→	埼玉産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、作柄が良かったことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、計画的な出荷ではあるが、年末年始需要により、現在平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は需要も落ち着くと見込まれ、平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		(127%)	(130%)	(106%)						
	ばれいしょ	217.56	287	294	219.65	282	・48t (86%)	愛媛(65)、熊本(15)	→	埼玉産の出荷が引き続き平年より多めと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。
		(132%)	(135%)	(128%)						
96.99	175	174	96.99	180	・1,460t (68%)	北海道(61)、長崎(29)	→	北海道産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、8月末の台風による大雨の影響で歩留まりが低下しており、肥大もあまり良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。長崎産は8月、9月の定植時の天候不順により小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。		
	(180%)	(179%)	(186%)							
96.99	169	164	96.99	171	・819t (94%)	北海道(65)、長崎(28)	→	北海道産及び長崎産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
		(174%)	(169%)	(176%)						

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成27年実績である。  
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	12月の価格情報				1月		1月上旬の東京及び大阪市場の入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の1月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考)過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格		(参考)過去5カ年平均価格	1月上旬					
		中旬	下旬							
洋菜類	ブロッコリー	297.74	450	362	385.82	301	・741t (128%)	愛知(35)、香川(21)、埼玉(14)	→	愛知産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。香川産は、11月の気温の低下により生育遅れとなっていることから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は天候に恵まれた10月上旬定植分が出荷を迎えることから、平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		(151%)	(122%)	(78%)						
根菜類	ごぼう	340.20	469	342	417.58	290	・134t (95%)	徳島(35)、鳥取(13)、長崎(11)	→	愛知産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、香川産の出荷が平年並みに回復してくるから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		(138%)	(101%)	(69%)						
根菜類	ごぼう	272.73	420	452	318.13	540	・120t (94%)	青森(65)、茨城(16)	→	青森産は、8月末の台風の影響により葉の損傷や茎の折れ等が発生し、細物や短物が多く、曲がりも見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 青森産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平年を上回っているの価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		(154%)	(166%)	(170%)						
果菜類	かぶ	185.34	296	374	188.58	291	・103t (86%)	茨城(45)、青森(20)	→	千葉産は、11月下旬の降雪の影響で生育遅れがみられ小玉傾向であり、一部産地では品質の低下もみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれ、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		(160%)	(202%)	(154%)						
118.03	137	150	152.86	166	・281t (87%)	千葉(86)	→	千葉産は、11月下旬の降雪の影響で生育遅れがみられ小玉傾向であり、一部産地では品質の低下もみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれ、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
(116%)	(127%)	(109%)								
129.00	177	172	137.79	172	・51t (73%)	徳島(41)、福岡(28)、石川(16)	→	千葉産は、11月下旬の降雪の影響で生育遅れがみられ小玉傾向であり、一部産地では品質の低下もみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれ、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
		(137%)	(133%)	(125%)						

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成23~27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成27年実績である。

2 野菜の輸出入動向 ー 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について ー

貿易統計によると、11月の生鮮野菜の輸入量は8万4千トン(前年同月比162%)と、9月(同130%)、10月(同113%)に続き前年を大幅に上回った。加えて、数量の大きい加工野菜も1万5千5百トン(同106%)と増加したため、野菜全体では、2万3千9百トン(同120%)と前年を大幅に上回った。

このうち、中国産の輸入数量合計は14万2千トン(同127%)で、前年と同様野菜の輸入数量の半数以上を占め(60%)、3カ月連続で50%を上回った。

なお、11月の輸出量は、生鮮野菜が2万5千1百2トン(同92%)と前年をかなりの程度下回ったものの、加工・業務用などに使用される加工野菜が、1万5千1百1トン(同131%)と大幅に上回ったため、野菜全体では3万6千6百4トン(同102%)と、前年をわずかに上回った。

1. 野菜の輸入数量

区分	平成26年		平成27年		平成28年11月		平成28年1月~11月	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	884,735	104	826,845	93	83,540	162	784,272	103
加工野菜	1,786,655	96	1,753,545	98	155,206	106	1,608,720	100
野菜合計	2,671,390	99	2,580,390	97	238,746	120	2,392,992	101
うち中国産野菜合計	1,410,773	99	1,356,694	96	142,201	127	1,236,345	100
中国産シェア	53		53		60		52	

1-1. 主な生鮮野菜の輸入先(平成28年11月)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	23,068	128	中国	21,549	米国	1,508	韓国	12
にんじん及びかぶ	14,172	275	中国	12,902	豪州	1,198	ニュージーランド	50
キャベツ	8,888	318	中国	8,828	韓国	33	豪州	21
ねぎ	5,939	153	中国	5,939				
ごぼう	5,668	131	中国	5,656	台湾	12		
かぼちゃ	5,083	121	メキシコ	2,868	ニュージーランド(他)	1,422	トンガ	760
ジャンボピーマン	2,805	78	韓国	2,088	ニュージーランド	588	オランダ	129
ブロッコリー	2,550	384	米国	2,521	中国	20	メキシコ	9

1-2. 同輸入先(平成27年11月)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	17,967	128	中国	17,230	米国	724	フランス	13
にんじん及びかぶ	5,154	275	中国	4,917	豪州	211	米国	26
キャベツ	2,791	318	中国	2,705	韓国	86		
ねぎ	3,887	153	中国	3,887				
ごぼう	4,314	131	中国	4,292	台湾	23		
かぼちゃ	4,211	121	メキシコ	1,667	トンガ	1,386	ニュージーランド(他)	1,148
ジャンボピーマン	3,578	78	韓国	2,963	ニュージーランド	594	オランダ	21
ブロッコリー	2,550	384	米国	476	中国	169	豪州	11

資料：農産産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」) ※四捨五入の関係上、合計と国別の数字は一致しないことがあります。

●問い合わせ先 独立行政法人農産産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。  
※無断転載禁止 ・ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。

2. 野菜の輸出数量

区分	平成26年		平成27年		平成28年11月		平成28年1月~11月	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量	前年同月比	数量
生鮮野菜	9,573	98	22,992	240	2,512	92	26,271	171
加工野菜	7,857	76	9,510	121	1,151	131	9,932	117
野菜合計	17,429	88	32,502	186	3,664	102	36,204	152

2-1. 主な生鮮野菜の輸出先(平成28年11月)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ及びシャロット	1,983	114	韓国	1,078	台湾	881	中国	24
ながいも	231	45	台湾	126	米国	85	シンガポール	19
きのこ(その他、ほらたけ属以外)	122	91	台湾	93	香港	16	タイ	10

2-2. 同輸出先(平成27年11月)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ及びシャロット	1,747	114	台湾	1,212	韓国	532	香港	2
ながいも	514	45	台湾	255	米国	208	シンガポール	49
きのこ(その他、ほらたけ属以外)	133	91	台湾	68	香港	44	タイ	15